

小・中・高・特

平成 31 年度(2019 年度)

教育研究員研究報告書

教育課題

(オリンピック・パラリンピック教育)

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究のねらい	1
III	研究構想図	2
IV	研究の仮説	3
V	研究の視点	3
VI	研究の内容	3
VII	研究の成果と課題	16

研究主題

共生社会の実現に向けた授業の工夫と改善 ～ 五つの資質の育成を授業に関連付けて ～

I 研究主題設定の理由

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」と表記。）の開催が来年度となった。平成 28 年度から都内全ての公立学校で実施している東京都オリンピック・パラリンピック教育（以下、「本教育」と表記。）は、集大成となる第Ⅲフェーズを迎える。『東京都オリンピック・パラリンピック教育』実施方針（東京都教育委員会 平成 28 年 1 月）では、東京が将来にわたり発展していくためには、年齢、国籍、文化の違いや障害の有無などにかかわらず、あらゆる人々が互いの人権を尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会を実現していくことが必要であると示している。また、これからの子供たちには、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観もつ人々と協力・協働しながら課題を解決する力が必要であるとしている。

学習指導要領（平成 29 年・30 年）では、改訂の基本方針として、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が挙げられており、子供たちが、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、学習の質をより高める授業改善を活性化していく必要性が示されている。

本教育を通じて、重点的に育成すべき五つの資質「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「スポーツ志向」、「日本人としての自覚と誇り」、「豊かな国際感覚」を教科等横断的な視点で組織的・計画的に育んでいくことが大切である。東京都教育委員会では、重点的に育成すべき五つの資質のうち、とりわけ共生社会の実現に必要な資質となる「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」の育成を重視している。本研究では、東京 2020 大会と、更にその先を見据え、本教育を計画的・継続的に展開していくことが必要であると考え、「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」を育成していくための指導方法について検討することとした。それぞれの資質における発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿を明確にし、各教科・科目のねらいを達成するとともに、目指す姿に迫る工夫・改善をした授業をすることで、児童・生徒のそれぞれの資質を育むことができると考えた。

以上のことから、研究主題を「共生社会の実現に向けた授業の工夫と改善～五つの資質の育成を授業に関連付けて～」と設定した。

II 研究のねらい

本研究では、共生社会の実現に向けて、本教育を通して育成すべき五つの資質のうち「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」において、発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿を明らかにする。そのうえで、各教科・科目に関連付け、児童・生徒それぞれの資質を育むための授業の工夫すべき点を明示する。

Ⅲ 研究構想図

教育研究員共通研究テーマ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

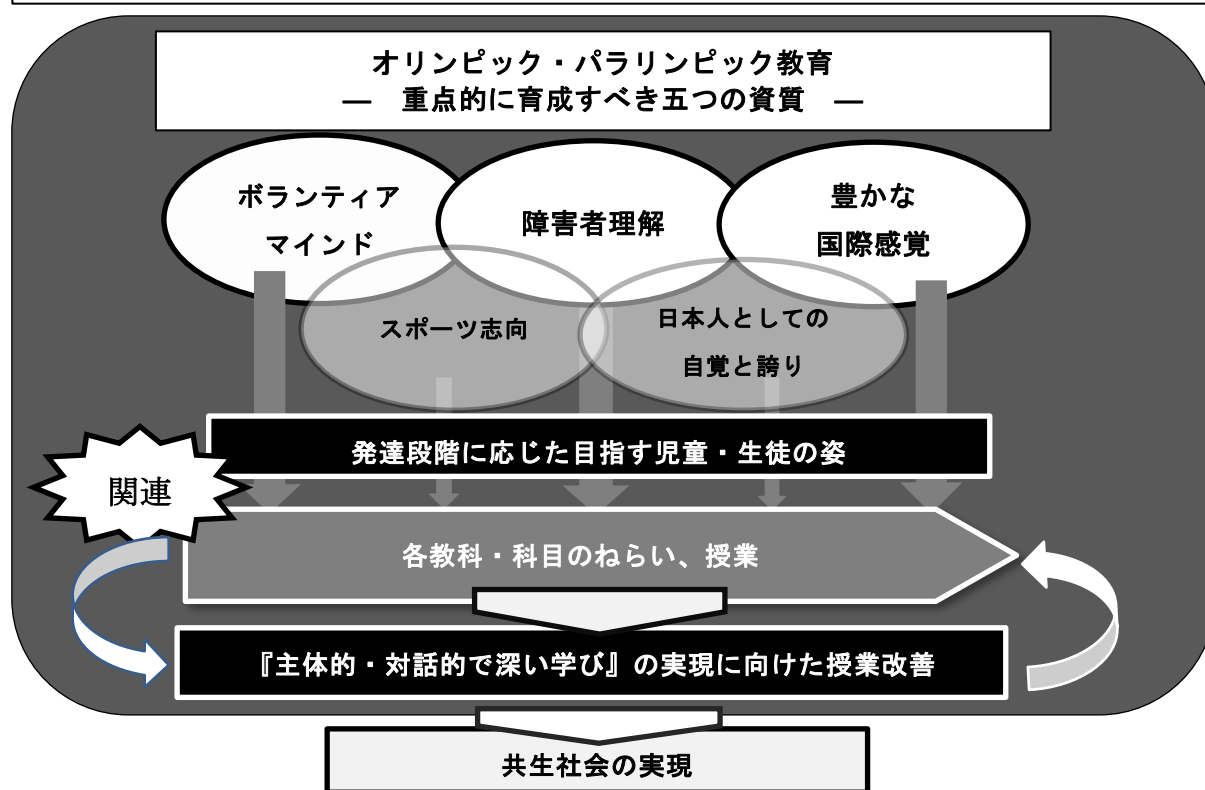
【オリンピック・パラリンピック教育における育成すべき人間像】 ◎本研究と関連の深いもの

- ◎ 自己を肯定し、自らの目標を持って、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人間
- スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間
- 日本人としての誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間
- ◎ 多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間

【研究主題】 共生社会の実現に向けた授業の工夫と改善
～ 五つの資質の育成を授業に関連付けて ～

【研究仮説】

「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」における発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿を明確にし、各教科・科目に関連付けた授業を継続的に行うことで、児童・生徒のそれぞれの資質が育成されるだろう。



【研究の視点】 東京 2020 大会以降にレガシーとなる授業づくり

【研究の内容】

【基礎研究】

- 発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿を明確化
- 各教科・科目に五つの資質を関連付けた授業の工夫と改善

【調査研究】

教員のオリンピック・パラリンピック教育の授業に関する意識調査

【検証授業】

小学校 第5学年 社会科 「自動車をつくる工業」
中学校 第2学年 特別の教科 道徳 「島耕作～ある朝の出来事～」
高等学校 第1学年 国語科 国語総合 現代文 「空気を読む」

Ⅳ 研究の仮説

「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」における発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿を明確にし、各教科・科目に関連付けた授業を継続的に行うことで、児童・生徒のそれぞれの資質が育成されるだろう。

Ⅴ 研究の視点

研究主題に迫るため、本研究では研究の視点を「東京 2020 大会以降にレガシーとなる授業づくり」と設定した。そこで、本部会では、日常の教育活動に工夫を加え、各教科・科目と関連させながら、オリンピック・パラリンピック教育を実施していくことで、東京 2020 大会以降も長く続く教育活動につながると考え、以下の三つの視点で授業を工夫・改善していく。

1 発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿を明確化

共生社会の実現に必要な資質となる「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」を育成するための視点を明確にし、それぞれの資質における発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿を設定し、授業づくりを行う。



2 共生社会の実現に必要な資質を育成するための指導計画の作成

各教科・科目のねらいを達成するとともに、オリンピック・パラリンピック教育を通して、重点的に育成すべき資質を児童・生徒に身に付けさせるための指導計画を作成する。各教科・科目の単元の目標や教材の特性を鑑み、重点的に育成すべき資質を育成する単元の指導計画を立て、授業の工夫と改善を行う。



3 資質の育成につながるような自己評価シートの作成

児童・生徒が育成すべき資質に対応した自己評価を行うことで、自らの成長や課題を達成すべき基準に照らして実感させることができる。また、教員は児童・生徒の振り返りから個々の課題を把握し、資質が育成できるよう授業改善に取り組む。

Ⅵ 研究の内容

1 調査研究

(1) 調査のねらい

東京都オリンピック・パラリンピック教育における、「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」の三つの資質に関する教員の意識調査を行い、現状と課題を明らかにして、本教育の授業への活用に寄与する。

(2) 調査内容

「オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート」により、「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」の三つの資質における、授業に関する意識を調査する。

(3) 調査概要

調査期間	令和元年9月から10月まで
調査対象	研究員所属校の教員（355名）
調査方法	質問紙法

(4) 調査項目および結果

ア あなたの所属校では、年間を通じてオリンピック・パラリンピック教育に取り組んでいると思いますか。

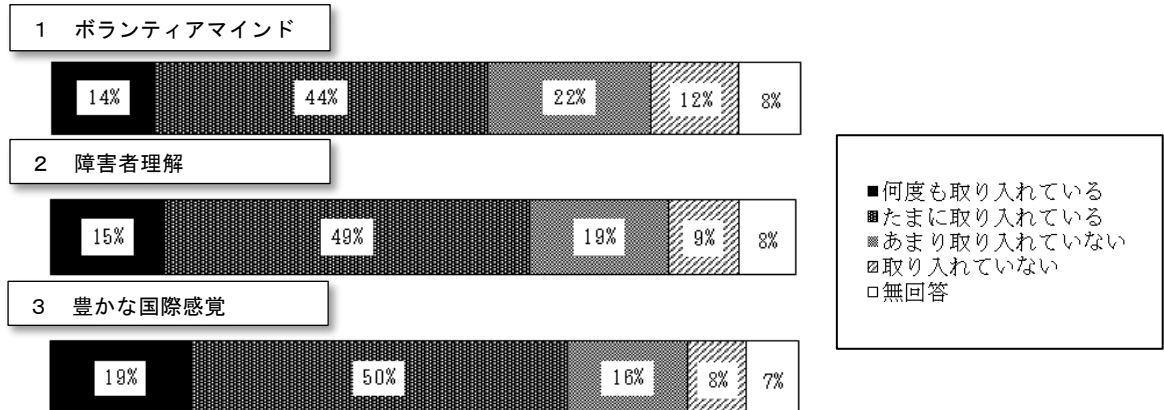


イ アで「あまり取り組めていない」「取り組めていない」理由は何ですか。（複数回答可）

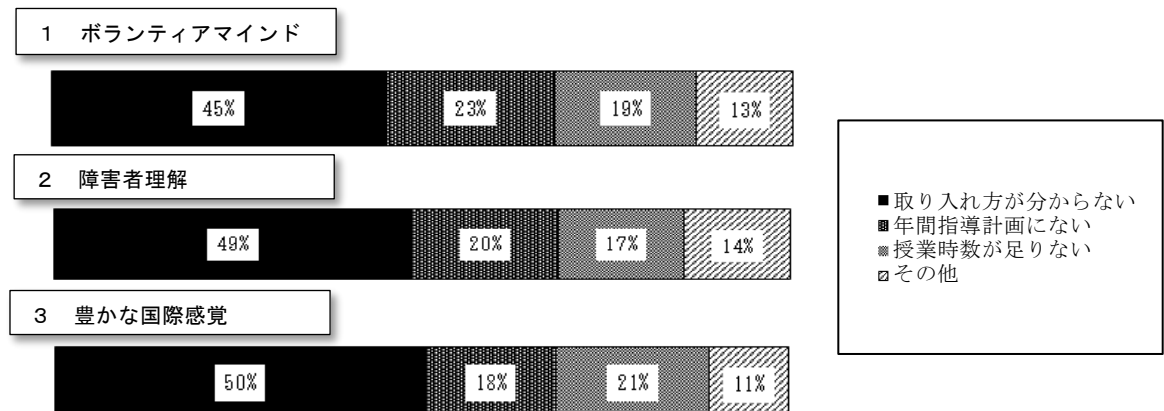


オリンピック・パラリンピック教育について「よく取り組んでいる」、「取り組んでいる」と回答した教員は約7割である。その一方で、3割の教員が、「あまり取り組めていない」、「取り組めていない」と回答している。その主な理由は、「取組が単発の行事でのみ」、「取組が一部の教員のみ」であり、オリンピック・パラリンピック教育を行事として捉えている傾向がある。

ウ あなたは、重点的に育成に取り組むべき五つの資質のうち、「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」について授業で取り入れていますか。



エ ウで「あまり取り組めていない」「取り組めていない」理由は何ですか。（複数回答可）



ウの三つの資質の育成を授業に関連付けているかの問いでは、それぞれの資質において、約6割から7割の教員が「取り入れている」と回答している。一方で、約3割の教員が、「あまり取り入れていない」、「取り入れていない」と回答し、その主な理由は、「取り入れ方が分からない」である。

オ あなたは、以下の内容を捉えた授業を行っていますか。

ボランティア マインド	他者を思いやる心や行動	70%
	自尊感情の向上	55%
	社会に貢献しようとする意欲	39%
障害者理解	自己理解・他者理解	64%
	人権と多様性の尊重	42%
	平等な社会	28%
豊かな 国際感覚	多様性を理解し共に生きる態度	51%
	異文化に対する理解と言語の活用	33%
	国際社会の平和と発展	18%

(5) 考察

本調査で、オリンピック・パラリンピック教育における「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」の三つの資質の育成において、約6割の教員が授業に取り入れており、多くの学校が本教育を日常の教育活動に関連付け、実施していることが分かった。一方で、授業に「取り入れていない」とする教員も約3割おり、その主な理由が「取り入れ方が分からない」であった。「取り入れ方が分からない」と回答した教員のアンケート結果を抽出して分析したところ、オの問いにおいて、三つの資質の視点を一つ以上授業に関連付けていることが分かった。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う上で、オリンピック・パラリンピック教育で育成すべき資質と共通点があるためと考える。つまり、本教育で重要視している児童・生徒の資質の育成について、教員が理解を深めることで、本教育を意図的に授業に関連付けられると考える。後述の基礎研究で「発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿」を明らかにし、検証授業において、本教育を授業に関連付けた実践事例を示している。各学校における東京2020大会以降もレガシーとなる授業づくりの一助になるものとする。

2 基礎研究

- (1) 「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」における発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿を明確化

ア 「ボランティアマインド」における発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿

この資質を育成するための視点を、「自尊感情の向上」、「他者を思いやる心」、「社会貢献への意欲」とし、目指す児童・生徒の姿を設定した。

段階	目指す姿
小学校 (第1・2・3学年)	自分を価値ある存在として捉え、積極的に身近な人に思いやりをもって接しようとする。
小学校 (第4・5・6学年)	自分を価値ある存在として捉え、積極的に周りの人に思いやりをもって役割を果たそうとする。
中学校	自分を価値ある存在として捉え、自ら地域に貢献しようという気持ちを持ち、自分にできることに取り組もうとする。
高等学校	自分を価値ある存在として捉え、主体的に社会貢献に参画しようとする。

イ 「障害者理解」における発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿

この資質を育成するための視点を、「多様性の尊重」、「共に助け合い、支え合って生きる力の育成」、「心のバリアフリーの浸透」とし、目指す児童・生徒の姿を設定した。

段階	目指す姿
小学校 (第1・2・3学年)	互いの違いを知り、誰に対しても公平に接しようとする。
小学校 (第4・5・6学年)	互いの違いを理解し、誰に対しても公平に接しようとする。
中学校	それぞれの特性を理解し、誰に対しても公平に接しようとする。
高等学校	互いの特性を尊重し、共に助け合い、支え合って、行動しようとする。

ウ 「豊かな国際感覚」における発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿

この資質を育成するための視点を、「世界の多様性への理解」、「世界で通用する英語力」、「世界の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」とし、目指す児童・生徒の姿を設定した。

段階	目指す姿
小学校 (第1・2・3学年)	日本や世界の国々について知り、身近な人と関わろうとする。
小学校 (第4・5・6学年)	日本や世界の国々について調べ、すすんで身近な人と関わろうとする。
中学校	世界各国・地域の文化に対する理解を深め、すすんで外国の人と交流しようとする。
高等学校	世界各国の文化に対する理解を深め、主体的に外国の人とコミュニケーションを図ろうとする。

※ 知的障害のある児童・生徒に対する教育を行う場合は、児童・生徒の実態に応じて目指す姿を設定する。

※ 「オリンピック・パラリンピック教育実践事例集」(東京都教育委員会 平成29年9月)を参考に作成

3 検証授業

実践1 小学校第5学年 社会科

「障害者理解」：小学校（第4・5・6学年）の段階で目指す児童の姿

互いの違いを理解し、誰に対しても公平に接しようとする。

1 小単元名

「自動車をつくる工業」

2 小単元の目標

自動車をつくる工業を通して、我が国の工業生産について意欲的に調べ、自動車産業に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを理解するとともに、国民生活を支える我が国の工業生産の発展について考えることができる。

3 小単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 観察・資料活用 of 技能	エ 社会的事象についての知識・理解
①我が国の自動車生産の様子に関心をもち、意欲的に調べようとしている。 ②国民生活を支える我が国の自動車生産の発展を考えようとしている。	①我が国の自動車生産の様子について、学習問題や学習問題などに対する予想、学習計画を考え、表現している。 ②自動車生産の様子と国民生活とを関連付けて、自動車生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、適切に表現している。	①地図や統計などの資料を活用して、我が国の自動車生産の様子や様々な自動車について必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを整理して、ノートにまとめている。	①様々な自動車が国民生活を支えていることを理解している。 ②自動車生産に従事している人々の工夫や努力、自動車生産をさせる貿易や運輸などの働きを理解している。 ③我が国の工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

4 小単元について

本小単元では、工業生産の盛んな地域として、国内で最も自動車生産額が大きい愛知県豊田市を取り上げる。自動車などの工業生産が、消費者や社会の需要に応え、生産に従事する人々の工夫や努力、貿易や運輸などの働きによって支えられ、国民生活に欠かすことのできない重要な役割を果たしていることなどを学習する。

指導に当たっては、第1時のつかむ段階で小単元を通した学習問題を設定する。様々な立場の自動車購入理由や基準を調べることで、自動車は生活に欠かせないものであり、自動車に対する人々のニーズは多様であることを理解し、障害者理解につなげていけるようにする。

第2時以降の調べる段階では、教科書や資料集などの資料を活用して具体的に調べること、自動車生産に携わる人々が消費者の多様な需要に応え、環境に配慮しながら優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解できるようにする。その中で、障害者の要望を取り入れ、専用の車を開発していることにも触れるようにする。

第9時のまとめる段階では、ノートを読み返し、学習問題について分かったことをまとめることで、自動車生産と国民生活を関連付け、日本の自動車生産の工夫や努力、よさについて考えを深める。単元のまとめとして、使う人のことを想像しながらオリジナルの自動車を考えることで、日本の自動車生産の特徴やよさに対する理解が深まるとともに、自動車生産に携わる人々の工夫や努力について考えられるようにした。

5 研究主題に迫るための手だて

東京 2020 大会以降にレガシーとなる授業づくりを行うために、以下の手だてを講じる。

- (1) 各教科の単元の目標と教材の特質を鑑み、「障害者理解」における発達段階に応じた目指す児童の姿から、「資質・能力」を教材の中に取り入れながら指導計画を作成し、計画的・継続的に指導する。
- (2) 毎時間、少人数グループでの話し合う時間を設けることで、常に自己と他者の違いに気付かせていく。
- (3) 自己評価では、まず自分の学びを振り返り、次の学びにつなげるようにすることで、児童が主体的に学習に取り組む態度を育んでいく。さらに、自己評価をすることで自分の学び方の到達度が分かり、よりよく学ぼうとする意欲を高めていく。

月		日		自己評価シート	
観点	S	A	B	C	
① 自分のことについて	自分の考えを分かってもらえるように、積極的に言うことができた。	自分の考えを積極的に言うことができた。	自分の考えを言うことができた。	自分の考えをもつことができた。	
② 話し合いについて	話し合いに参加して、友達の考えを聞き、それを大切にすることができた。	話し合いに参加して、友達の考えを聞くことができた。	話し合いに参加した。	話し合いに参加しなかった。	
③ 授業についての振り返り					
	⋮				

6 単元の指導計画と評価計画（9時間扱い）

時	学習内容・学習活動	評価基準と評価方法	☆オリンピック・パラリンピック教育における指導の視点
第1時	①自分が購入したい自動車についてその理由をグループで話し合う。 ②実際の購入者は何を決め手に選ぶかを予想し、家族や身近な人にインタビューをする計画を立てる。	ア① ウ② 観察(発言・発表)、ノート、自己評価	☆自分の考えと友達の考えを聞き、共通点や違いを知り、受け止める。 ☆障害者の購入者像を考える。
第2時	①インタビュー結果をグループで共有し、購入者(消費者)には、様々なニーズがあることを理解する。	イ① エ① 観察(発言・発表)、ノート、自己評価	
第3時	①資料を読み、自動車生産工程における工夫や努力についてグループで話し合う。	ア① ウ① 観察(発言・発表)、ノート、自己評価	
第4時	①資料を読み、消費者のニーズに応え、よりよい自動車を効率よくつくるための工夫について調べる。	エ② 観察(発言・発表)、ノート、自己評価	
第5時	①自動車の部品が、どこでどのように作られているのかについて資料やインタビューなどから調べる。 ②生産時の工夫や努力についてグループで話し合う。	エ② 観察(発言・発表)、ノート、自己評価	
第6時	①完成した自動車がどのように消費者のもとへ届けられているのか調べ、グループで話し合う。	エ② 観察(発言・発表)、ノート、自己評価	
第7時	①最新の自動車の映像を見たり、資料を読んだりして、地球環境への負担を少なくするためにどのような工夫されているのか調べる。	ア② エ② 観察(発言・発表)、ノート、自己評価	
第8時	①より安全に多くの人が運転しやすいように、どのような工夫や努力をしているのか調べ、グループで話し合う。	イ② エ③ 観察(発言・発表)、ノート、自己評価	

第9時 【本時】	①今までの学習を振り返り、これからの自動車生産について考える。 ②オリジナル自動車を自分で考え、グループでよりよいものになるように話し合う。	イ② ウ② 観察(発言・発表)、ノート、自己評価	☆様々な購入者像を想定し、相手のことを思いやってオリジナル自動車を考える。 ☆話合いの中で、友達の意見を聞き、取り入れながら考える。
-------------	---	-----------------------------	---

7 本時（9時間扱いの第9時間目）

(1) 本時の目標

日本の自動車のよさについて考え、これからの自動車生産について自分の考えをまとめ、表現することができる。

(2) 本時の展開

時間	具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項 ☆「オリンピック・パラリンピック教育との関連」	評価内容と方法
導入 10分	・前時までの内容を確認する。 ・本時のめあてである「オリジナル自動車を考えよう」を確認する。	☆様々な購入者像を想定し、相手のことを思いやってオリジナル自動車を考える。	
展開 25分	・今までの学習で調べて分かったことや考えたことを振り返り、日本の自動車づくりのよさについて、確認する。（品質が高い。安全性が高い。環境に配慮されている。障害者も運転できる。） ・消費者像を想定し、オリジナル自動車を考える。それぞれの意見を少人数グループで相談し、一台のオリジナル自動車を完成させる。 ・オリジナル自動車を発表し合う。	・消費者像を決め、そのニーズに応えながら、よりよいものにしていくことを確認する。 ・ホワイトボードにオリジナル自動車をまとめていく。 ・自動車を紹介し合い、様々な工夫に気付く。 ☆話合いの中で、友達の意見を聞き、取り入れながら考える。	よりよい自動車を生産していくにはどのようなことが大切か考えている。 【イ②】発言、ノート、ホワイトボード
まとめ 10分	・日本の自動車作りが、わたしたちの生活を支えていること確認する。 ・自動車をつくる工業について単元の振り返りをする。	・本時の振り返りを「自己評価シート」に記入し、回収する。	日本の自動車のよさについて考え、これからの自動車生産について自分の考えをまとめることができる。 【ウ②】発言、ノート

8 考察

(1) 成果

ア 小単元の始めと終わりに「障害者理解」における発達段階に応じた目指す児童の姿と関連付けて授業を行うことで、小単元全体を通して、同様の視点を意識しながら学びを深めることができ、教科のねらいを達成するとともに、障害者理解を図ることができた。

イ 自己評価を確実に行うことで、その時間に学んだことを確認するとともに、次の学びについて関心をもつことができた。さらに、自分の学び方を自己評価シートの到達度から理解し、より目指す姿に近づこうとする姿が見られた。

(2) 課題

障害者理解の資質を育成するために、年間指導計画で予定していたよりも時数を増やして実施した。教科等横断的な視点で年間指導計画を作成する必要がある。

「ボランティアマインド」：中学校の段階で目指す生徒の姿

自分を価値ある存在として捉え、自ら地域に貢献しようとする気持ちを持ち、自分にできることに取り組もうとする。

1 教材名

「島耕作」～ある朝の出来事～

(出典「中学生の道徳 自分を見つめる」あかつき書籍)

2 ねらいとする価値について

集団は構成員相互の協力があって維持されるものであるため、互いに人間関係を大切にするとともに、励まし合うという協力関係をつくりあげていくことが大切である。利己心や狭い仲間意識を克服し、協力し合うことを通し、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことの大切さを深く考えさせたい。

3 評価の観点

ア 「島耕作」を通して、自分の生活を見直すとともに、「誰もが過ごしやすい社会を築くためには何が大切か」について考えることにより、社会連帯の大切さについての理解を、自分との関わりで深めたか。

イ 「島耕作」を通して、「誰もが過ごしやすい社会を築くためには何が大切か」を考え、議論することにより、進んで社会と関わるためにどのような言動を取るべきかについて、多面的・多角的な見方ができていたか。

4 資料概要

主人公の島は、混雑した電車内で、大変な思いをしている老婦人を前に、平然と座席に座り新聞を読むサラリーマンを目にする。この光景を見て、怒りがこみ上げた島は、サラリーマンに対して座席を老婦人に譲るように強く求める。すると、サラリーマンは島の要求を断り、二人は口論になる。この二人のやりとりだけを捉えると島の主張は正しく、サラリーマンが席を譲るのが社会連帯につながると言えるだろう。しかし、老婦人や他に乗り合わせた乗客の心境に目を向けると、島の行動は多くの人に不快感を残したという見方もある。

「互いにいたわる心を持ちたい」の資料に登場する人たちの行動は、互いに思いやりを持ち、相手の立場を尊重したものである。この二つの資料を比較することで、生徒に思いやりをもって、積極的に社会に関わろうとすることの大切さを伝えられると考えている。

5 研究主題に迫るための手だて

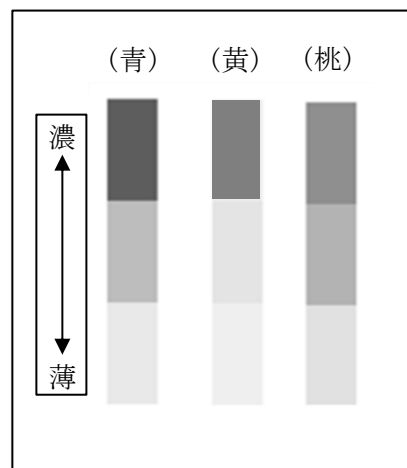
東京 2020 大会以降にレガシーとなる授業づくりとして、以下の手だてを講じる。

(1) 発問の工夫

「今、自分にできること」という発問をすることで、資料に含まれる道徳的価値に加え、「ボランティアマインド」の視点を取り入れる。

(2) 「気持ち柱」の活用

青は賛成、桃は反対、黄は分からないとし、それぞれの色の濃さで気持ちの強さを示す。賛成、反対の程度を生徒一人一人が示すことで、様々な思いがあることを生徒が知ることができると考えられる。また、分からないとした生徒にその理由を述べさせることで悩む視点を明確にすることができ、道徳的価値に対する葛藤がおき、「自分ならどうするか」という視点で考えられると想定し、活用した。



(3) 振り返りの工夫

自己評価を行う振り返りでは事前に生徒に三段階で評価規準を示すことで、授業のねらいを意識させるとともに、内省を促しやすいものとした。評価項目は、「ボランティアマインド」における発達段階に応じた目指す生徒の姿から作成した。

自己評価シート（授業での学びの振り返り）

	分かる	生かす	つなげる
道徳的価値	この資料の道徳的価値が分かる。	この資料の道徳的価値が分かり、 <u>今自分にできることに取り組もう</u> としている。	この資料の道徳的価値が分かり、 <u>自ら社会のために貢献</u> しようとしている。
話し合い活動	話し合いに参加し、自分の意見を話すことができた。	話し合いに参加し、自分の意見を話すとともに、他者の意見も尊重できた。	話し合いに参加し、自分の意見を話すとともに、他者の意見を聞き、新たな価値を感じることができた。
本時の感想			

6 本時の展開

時間	具体的な学習活動 (○主な発問 ◎中心発問 △補助発問)	指導上の留意点・配慮事項 ☆「オリンピック・パラリンピック教育との関連」	評価の視点
導入 10分	・自己評価シートの確認 △「もし、あなたが島耕作なら、この後どのような行動をしますか？」	☆自己評価シートを事前に確認することで、ボランティアマインドの意識をもてるようにする。	

展開 ① 15分	- 資料の範読① ○「サラリーマンの言い分をどう思いますか？」 ○「島耕作の言動をどう思いますか？」 ・「気持ち柱」に自分の意見を示し、代表の生徒に意見を発表する。	☆「賛成」、「反対」、「分からない」からそれぞれ代表生徒を指名し、発表する。	自分の意見を発表し、他者の意見から学びを深めている。【ア・イ】観察
展開 ② 20分	・範読した資料からは分からなかった場면을提示する。 - 提示資料の概要：二人の口論に巻き込まれて、おばあさんが申し訳なさそうになってしまう。 △「おばあさんはどんな思いだったでしょう？」 ・資料範読② ・再度、島耕作の言動について、「賛成」、「反対」、「分からない」の立場を考え、「気持ち柱」に自分の意見を示す。 ○「島耕作はどうすれば良かったのか？」 ◎「誰もが過ごしやすい社会を築くために・・・今の自分にできることは？」	◇おばあさんの気持ちに着目できるようにする。 ☆意見が変わった生徒を中心に発表する。 ☆全員共通して「誰もが過ごしやすい社会を築くために私は・・・」という書き出しで書かせることでボランティアマインドを意識する。	- 自分の意見を発表し、他者の意見から学びを深めている。【ア・イ】観察 - 今の自分にできることを社会連帯の視点から書くことができています。【ア】ワークシート
終末 5分	・本時の振り返りを自己評価シートに記入する。	☆自己評価シートの「道徳的価値」の項目でボランティアマインドを意識する。	- 自分の学びを振り返り、自分の考えを言葉にしようとしている。 【ア・イ】ワークシート

7 考察

(1) 成果

ア 「今、自分にできること」という発問をすることで、「ボランティアマインド」の育成につながった。

イ 授業の導入で自己評価シートの目指すべき姿を示すことにより、授業において、ボランティアマインドの視点を持ち、活発な話し合い活動を実現することができた。

ウ 「気持ち柱」の活用により、道徳的価値の葛藤を明確にし、「自分ならどうするか」という視点で考えることができた。

(2) 課題

「今、自分にできること」という発問をすることで、本来その教材に含まれる道徳的価値について、多面的・多角的な見方が十分にできないことがあるため、あらゆる授業において、効果的な発問かどうかは事前に吟味する必要がある。

「豊かな国際感覚」：高等学校の段階で目指す生徒の姿

世界各国の文化に対する理解を深め、主体的に外国の人とコミュニケーションを取るために必要な対話的な態度を身に付ける。

1 教材名

「空気を読む」

2 単元の目標

- (1) 筆者の主張を読み取り、現代日本のコミュニケーションのあり方に対する問題意識を深める。(ア 関心・意欲・態度)
- (2) 日本と世界各国の文化との比較を通して、コミュニケーションをする上で重要なことを理解し、主体的に外国の人と交流しようとする「豊かな国際感覚」を育成する。(ア 関心・意欲・態度)
- (3) 意欲的に話し合い活動に取り組み、文章や資料を根拠として自分の意見を論理的に述べる。(イ 読むこと)
- (4) 重要語句とそれが使われる文脈を理解し、言葉の背景に興味をもつ。
(ウ 知識・理解)

3 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 読むこと	ウ 知識・理解
①話題について様々な角度から検討して話し合い、自分との連関の中で、自分の考えを広げようとしている。 ②文章や資料を根拠として論理の構成や展開を工夫して意見を述べようとしている。	①評論文の内容を叙述に即して的確に読み取っている。 ②必要に応じて要約や自分の意見を書くことができる。	①評論文の構成を理解し、筆者の主張とその具体例を関連付けて読むことができる。 ②その文章がどのような文脈で読まれてきたか、背景を知る。

4 教材観

本単元で扱う教材は「空気を読む」(香山リカ著)である。現代の日本における人間関係やコミュニケーションの特質を分析した上で、自分の考え、意見をしっかりと伝えることの重要性を述べた文章となっている。

生徒が国際社会に貢献し、東京、そして日本の更なる発展の担い手となるためには、自分の考えや意見を主体的に発信していく「対話的な態度」が不可欠である。本文は身近な例が多く、話し合い活動に展開することが比較的容易であり、日本の現代的なコミュニケーションのあり方について相対化し、批判的に捉えた上で、改めて国際社会でどのような言語的な態度が求められるのか、考える契機にすることのできる教材である。

5 研究主題に迫るための手だて

東京2020大会以降にレガシーとなる授業づくりとして、以下の手だてを講じる。

- (1) 「豊かな国際感覚」における「発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿」と、教科の単元目標・教材の特質を照らし合わせ調整した上で、育成すべき資質・能力を設定する。
- (2) 目標を共有させることで、話し合い活動を充実できるようにする。
- (3) 教材として国際社会との文化の比較をテーマとした文章を用いる。
- (4) 同テーマで「読み比べ」のできる文章(鴻上尚史著『「空気」を読んでも従わない』を副

教材として用いる。

(5) 「自己評価シート」を用いて振り返りをする時間を設ける。

自己評価シート（授業での学びの振り返り）				
観点	S	A	B	C
話し合いへの参加	いつも、全体の話し合いを進展させることを意識しながら話題やアイデアを提供し、建設的な話し合いに積極的に貢献した。	ほとんどの場合、積極的に自分の意見を述べ、意見交換をした。	自分の意見は述べた。	ほとんど話し合いに参加しなかった。
話し合いへの参加の促進	メンバーの発言に関連付けながら発言したり、質問したりするなど、メンバーの相互作用を生かして議論を深めることに貢献できた。	他のメンバーに話を向けたり、理解を態度で示したりして、メンバーの積極的参加を促した。	いつも、メンバーの発言は聞いていた。	ほとんど話し合いに参加しなかった。
言語的な態度	いつも、文章や資料を根拠とし、他者の意見を考慮した上で、自分の意見を論理的に述べた。	ほとんどの場合、文章や資料を根拠とし、他者の意見を考慮した上で、自分の意見を論理的に述べた。	自分の意見は論理的に述べた。	根拠をもって自分の意見を述べられなかった。
日付	話し合いへの参加	話し合いへの参加の促進	言語的な態度	考えたこと・疑問
/	S・A・B・C	S・A・B・C	S・A・B・C	

6 単元の指導計画と評価計画（4時間扱い）

時	学習内容・学習活動	評価基準と評価方法	オリンピック・パラリンピック教育における指導の視点
第1時 【本時】	①「空気を読む」ことについて考える。 「空気を読む」とはどのような行為か、他の言葉に言い換える。 ②意味段落1を捉え、筆者の問題意識を把握する。 「空気を読む」ことの問題点を整理する。	ア① イ① 観察（発言・発表）、ノート 自己評価	・主体的に他者とコミュニケーションを図ろうとしている。
第2時	①本文を通読し、形式段落を意味段落に分ける。 本文を通読する。 ②意味段落1の論点をまとめる。 形式段落と意味段落を整理する。 ③意味段落2の論点を把握する。 「考えてみれば、これは不思議なことではないか」という理由を考えて記述する。 ④本文の内容をノートにまとめる。 「準パブリックな関係」とはどのようなものか考える。	イ① ウ① 観察（発言・発表）、ノート、自己評価	・主体的に他者とコミュニケーションを図ろうとしている。 ・世界各国の文化に対する理解を深め、自分の考えを相対化し、自己の変容を言葉にしている。
第3時	①意味段落3の論点を把握する。 「準パブリック」な関係の中で、「場の空気」を読み合う理由を明らかにする。 ②意味段落4の論点を把握する。 現代社会における本質的な問題について理解する。 ③本文の内容をノートにまとめる。	イ① ウ① 観察（発言・発表）、ノート、自己評価	・主体的に他者とコミュニケーションを図ろうとしている。 ・世界各国の文化に対する理解を深め、自分の考えを相対化し、自己の変容を言葉にしている。
第4時	①本文を通して読む。 ②要約する。 全体の文章を二百字で要約する。 ③自分の意見文を書く。 文章を根拠として、筆者の考えと比べながら自分の考えを書く。	ア② イ② 観察（発言・発表）、ノート、自己評価	・主体的に他者とコミュニケーションを図ろうとしている。 ・世界各国の文化に対する理解を深め、自分の考えを相対化し、自己の変容を言葉にしている。

7 本時（4時間扱いの第1時間目）

(1) 本時の目標

- ・ 「空気を読む」ことについて、テキストを根拠として定義を明確にする。
- ・ 「空気を読む」ことによって、どのようなことが失われるか考える。
- ・ 意味段落1を捉え、筆者の「空気」に流されることへの問題意識を把握する。

(2) 本時の展開

時間	具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項 ☆「オリンピック・パラリンピック教育との関連」	評価内容と方法
導入 5分	・これから授業で扱う文章のタイトルと、授業の目標を確認する。	・ICTを用いて、生徒の興味を喚起する。	
展開1 15分	・教科書本文の意味段落1を音読する。 ・発問に対して取り組む。 ・発問1「空気を読むとはどういうことか。」 ・読み比べ用のテキスト『「空気」を読んでも従わない』を読む。 ・発問2「なぜ空気を読むことに必死になるのか。」	・短く切って、音読する。 ・初めは、個人で考え、自分なりの答えを言語化する。 ・グループに分かれ、白いシートに答えをまとめる。 ☆自分の考えを他者が読んでも分かるように記述している。 ☆国際文化の違いから、自分たちの文化を反省的に捉えようとしている。 ☆文章を読み比べることで、そこから生じた違和感や疑問を基に話し合うことができる。	筆者の主張とその具体例を関連付けて読解することができる。 【イ①】ノート
展開2 15分	・答えを共有する。 ・代表の班は発表する。	・まず、グループ間で意見を共有し、再考を促し、よりよい答えを作成する。 ・まとまった答えを、代表の班は発表する。 ☆自分の考えを他者に分かりやすく発表している。	他者の意見をしっかりと聞き、自分も伝えようとしている。 【ア②】観察
展開3 10分	・板書をする。 ・発問3「このような態度によって失われるものは何か。」	・オルテガの「大衆」の定義を紹介する。 ・空気に流されることによって失われるものは何かを考える。 ☆他者対話的にコミュニケーションする上で大切なことについて考える。	
まとめ 5分	・今日の授業を振り返る。 ・次回授業の見通しを伝える。	・本時の振り返りを「振り返りシート」に記入し、回収する。 ☆自分の考えを他者が読んでも分かるように記述している。	グループにおける話し合う態度と、筆者の「空気」に流されることへの問題意識について考える。【ア①】自己評価シート

8 考察

(1) 成果

ア 主体的、対話的に学んだことを自己評価し、言語化することで、次の授業につながる課題を発見したり、本時の授業における疑問や自分の考えをまとめたり、学びを深めることができた。

イ 育成すべき資質を明確に理解し共有することで、授業における話し合い活動で活発に意見を交換することができた。

(2) 課題

ア 育成すべき資質とそれを評価する自己評価シートを提示することで、生徒が学ぶことは明確になる。しかし、授業者の発問の意図を自己評価シート即して考えようとするあまり、自由な発想をしにくくなる生徒もいた。一方的に授業者から発問をするのではなく、まず育成すべき資質・能力に対して生徒が主体となって問いを立て、「どうやったらその力が身に付くか」「何をどうやって学ぶべきか」を考えさせるところからスタートするといった、

より高いレベルでの主体的、対話的な深い学びを目指し授業を展開していくことが必要であると感じた。

VII 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿を明確化

発達段階における目指す児童・生徒の姿を明確化することによって、教科の目標と関連付けながら、その単元における育成すべき資質を定めやすくなった。

- (2) 共生社会の実現に必要な資質を育成するための指導計画の作成

検証授業では、本教育と関連付けやすい教材や単元を選定し、単元の指導計画を作成するとともに、授業の工夫と改善の方法を実践例として示すことができた。これによって、日頃の授業計画や内容に育成すべき資質を関連付けながら実践できることを示した。

- (3) 資質の育成につながるような自己評価シートの作成

児童・生徒に、授業の中で育成すべき資質に対応した自己評価を行わせることで、自らの成長や課題を達成すべき基準に照らして実感させることができ、授業改善につなげることができた。

2 今後の課題

- (1) 共生社会の実現に必要な資質を育成するための指導計画の作成

本教育を各教科・科目に関連付けて五つの資質を育成していくためには、発達段階における目指す児童・生徒の姿を活用し、教科等横断的な視点で計画的・継続的に授業を行っていく必要がある。

年間指導計画の作成にあたっては、系統的に資質の育成を図れるように留意する。

- (2) 資質の育成につながるような自己評価シートの作成

育成すべき五つの資質に対応した自己評価の基準によって、児童・生徒は教員の意図を推察しすぎたり、柔軟な発想をしにくくなったりすることがある。育成すべき五つの資質に対応した自己評価の基準は、内容を十分に吟味し、年間を通じて計画的・継続的に活用していくことが必要である。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

小・中・高・特・教育課題（オリンピック・パラリンピック教育）

学 校 名	職 名	氏 名
中 央 区 立 有 馬 小 学 校	主任教諭	樋 山 裕 則
大 田 区 立 大 森 第 五 小 学 校	主幹教諭	○木 村 収 吾
大 田 区 立 洗 足 池 小 学 校	主任教諭	多 田 博 祐
武 蔵 村 山 市 立 第 四 小 学 校	主任教諭	平 山 瞳
多 摩 市 立 多 摩 第 一 小 学 校	主幹教諭	◎成 澤 優
葛 飾 区 立 葛 美 中 学 校	主任教諭	河 嶋 崇 人
調 布 市 立 調 布 中 学 校	主任教諭	山 下 陽 平
稲 城 市 立 稲 城 第 六 中 学 校	教 諭	石 塚 弘 樹
東 京 都 立 第 三 商 業 高 等 学 校	教 諭	田 城 真 奈
東 京 都 立 三 鷹 中 等 教 育 学 校	主任教諭	歌 川 雄 介
東 京 都 立 稔 ヶ 丘 高 等 学 校	教 諭	中 内 洋 勝
東 京 都 立 水 元 小 合 学 園	主幹教諭	○加 部 務
東 京 都 立 八 王 子 盲 学 校	教 諭	高 坂 則 之

◎世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 小宮山 詠美

平成 31 年度(2019 年度)
教育研究員研究報告書
小・中・高・特
教育課題（オリンピック・パラリンピック教育）

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849